

社会的課題解決に向けて

依存問題に相談窓口開設 第三者機関がともに解決

借金を繰り返す、日常の生活が送れない、家族や友人など周囲の人間を巻き込んでしまっパチンコ依存問題。業界としても特に優先順位の高い課題としてきた。全日本遊技

事業協同組合連合会(以下全日遊連)は、2006年4月に第三者機関「リカバリーサポート・ネットワーク」(以下RSN)を設立。それから約



リカバリーサポート・ネットワークでは依存問題の相談を行うだけでなく、支援する人材を育成する「援助職者・サポーター養成講座」も行っている。今年も6月の沖縄開催をスタートとして、神奈川、福岡、名古屋、大阪、東京と順次開催される

2年、RSNは08年の7月に正式な報告書を出した。

リカバリーサポート・ネットワークとは、ばちんこ依存問題で悩んでいる人やその家族に、無料で電話相談に応じる機関である。相談の電話を通じ、有用な情報の提供、必要に応じてフォーラムや家族教室などを企画・開催している。設立の背景には、依存問題が遊技業界が抱える大きな課題であるにもかかわらず、その相談先が極めて少ないという現状があった。電話は、レクチャーを受けた専属相談員のみが対応し、匿名での相談に応じている。

設立からの約2年間に寄せられた電話の総数は1835件。トータルでの1カ月平均は、約77件。その内訳は、本人からの電話が約46%、家族や友人からのものが約44%と比較率はほぼ同じ。本人からの電話の性別は男性69%・女性21%。年齢は30代が一番多いが、いずれの年代からも電話があり、世代に関係なく問題が起こりうる可能性が伺える。

また相談内容は、本人からの場合「やめるためにはどうしたらいいの」と簡潔で短い、家族や友人からの電話は、状況説明や依存症にな

っている本人への不満などで長時間の傾向にあるという。RSNでは受けた電話の対応として、21%は話を聞いて終了、他の71%に対しては相談者の状況に応じ、精神保健福祉センター、当事者相互援助グループなどの施設を紹介している。

また、相談件数を都道府県別に見ていくと、件数が一番多かったのが沖縄、次いで大阪、東京となっている。これはメディアで取り上げられ放映された地域やホール内のポスター掲示に積極的で認知度が高いなどが要素の一つとして考えられる。

注目すべきは相談経験の有無である。RSNに電話するまでにどこかに相談したことがある人は、全体の約4分の1。

問題を抱えていても相談できない、インフラが少ない現状を浮き彫りにしている。

ちなみにRSNでは、新聞などのマスメディアに紹介されると「家族・友人」からの相談が増え、ポスターが店舗に掲示されると「本人」からの相談が増加する傾向にあるという。

今後はRSNを必要としている人々に「知ってもらい、

利用してもらおう」という入り口をさらに広げることがミッションになっている。

東の間の夢や憩いを与え、生活のピリオドともなるサービスを提供する遊技産業。だが、どのような産業にも同じように、負の側面がある。それを解決するために、どの程度真剣に業界が取り組み、実施していくかで真価が問われる。

今、長年にわたる試行錯誤を経て、解決に対して前向きに着実に歩みを進めている。課題をクリアしていくことも遊技産業の大切な社会的役割だ。

リカバリーサポート・ネットワーク
相談専用回線(IP電話)050-3541-6420
月曜日～金曜日(祝日は除く)10:00～16:00
※相談料は無料ですが、電話料金がかかります